

市町村名 市 原 市

市町村名 ・所属名	市原市 保健福祉部 保健センター			フッ化物洗口 開始年度	H17 (私立幼稚園開始) H18 (市立幼稚園開始)		
保育所数	0/20	幼稚園数	公 15/6 私 (3)/26	小学校数	2/45	中学校数	0/21

※ 実施施設数/全施設数 (H19年3月31日現在)。

今年度補助事業で洗口を実施した幼稚園1園、小学校2校(ともに市立)。基盤整備事業を実施した施設市立幼稚園5園(19年度洗口開始予定)。以前からあるいは補助事業によらないフッ化物洗口実施幼稚園が私立幼稚園3園。

【フッ化物洗口に関する前年度までの経緯】

<p>H13～16年度「かかりつけ歯科医機能支援事業」において「フッ化物応用マニュアル」作成、意識調査の実施、研修会の開催を歯科医師会に委託した。</p> <p>フッ化物応用におけるホームケアとしてのフッ化物洗口については、特に三歳児健診において、保護者に周知し、歯科医師会の協力を得て、フッ化物洗口及びフッ化物歯面塗布実施歯科医院の名簿を作成し住民に情報提供を行っている。</p> <p>コミュニティケアとしてのフッ化物洗口は市歯科衛生士による巡回事業や出前講座の際に、幼稚園・保育所・小学校等へH15年のフッ化物洗口ガイドラインの配布、周知を続けてきた。</p> <p>H17年度には私立幼稚園1園が年長児のフッ化物洗口を開始し、市立幼稚園の園長会においてフッ化物洗口導入に向けて検討を重ねていたところであった。</p> <p>また学校歯科保健事業への取組みに向けて、H17年度に市内校長会で希望の小学校に巡回指導を行う旨を説明しその際、市のう蝕の現状を伝えた。(教育委員会へも説明)</p> <p>また、市養護教諭部会と連携を図るため、養護教諭研修会で市の現状説明及びう蝕予防に関する講話を歯科衛生士が行った。</p>
--

【推進体制づくりの経緯】

実施事項	具体的な内容	評価
市の歯科疾患に関する現状把握及び情報提供	各幼稚園・学校で実施されている定期歯科健康診断の結果を集計し、国や県との比較、市内学校別の一覧等、市の現状把握をし、各幼稚園・学校へ情報提供を行ってきた。	各園・学校では歯科健診は実施しているものの、数値的なまとめ、評価がされていなかった為、現状認識を図れたと思われる。
教育委員会への説明	18.8.8(火)学校保健課、課長他3名に説明。 18.8.11(金)教育委員会関連4課担当者に説明会実施。 18.9.12市立幼稚園園長会に説明。	事業の実施について教育委員会も認識の上、モデル施設については委員会からの推薦という形をとり実施することができた。
フッ化物洗口推進研究会	学識経験者、医師会、歯科医師会、薬剤師会、学校関係者(教育委員会含む)、市民代表、PTA等関係団体で組織した研究会を設置し2回のフッ化物洗口に関する研究会を開催した。(18.12.6(水)・19.2.21(水)) 主にフッ化物に関する基礎的知識・安全性の面から関係者の共通理解を図った。	市の歯科疾患状況やフッ化物応用に関する認識を共有するとともに、次年度以降の事業継続実施の問題点やフッ化物に対する安全性の理解について等も討議され共通理解が図れた。

<p>H18 年度市原市フッ化物洗口モデル事業報告会</p>	<p>小林清吾先生の基調講演「集団で行うフッ素洗口の安全性・効果・意義」と各モデル施設からの実施報告として、小学校校長、学校歯科医の立場から発表。幼稚園職員や養護教諭等、参加者による意見交換を交え実施。 参加者：学校歯科医・薬剤師・歯科衛生士学校・幼稚園関係者等 開催日時：19.3.7（水） 60名参加</p>	<p>フッ化物に関する基本的事項や効果・安全性について参加者も大変わかりやすく理解できたとの感想が多かった。モデル施設からの事例報告も具体的で現場関係者には大変参考になったと好評であった。</p>
--------------------------------	--	--

【施設における取り組み内容】

※今年度実施した施設ごとに記載のこと

施設①		
市原市立平三小学校 児童数 41名（4クラス）職員数 11名		
19年1月より洗口開始（週1回水曜日昼休み実施）		
実施事項	具体的な内容	評価
モデル校指定	市教育委員会より、フッ化物洗口普及モデル事業のモデル校として指定される。	教育委員会からモデル校指定という形で実施しやすかった。
ミニ集会 （学区民会議）	学校からの依頼により「食と歯の健康について」をテーマに保健センター栄養士と歯科衛生士による講演会を開催。その中でフッ化物洗口について説明実施。保護者・学校職員・地域住民50名の参加があった。 その後、学校より洗口実施文書を配布し、参加・承諾を全家庭に募る。（希望者は全校児童（41名）	保護者・学校職員・地域住民参加で児童の健康を考える集会において実施でき、共通理解を図ることができた。
洗口の練習	12月に水道水による洗口練習を実施。器材は実際のものを使用し、児童には冬休み中も家庭で練習してみるよう投げかけた。	養護教諭が中心となりスムーズに実施できた。
洗口の実施	19.1.10（水）洗口開始。毎週水曜日、給食後のロング昼休みに洗口実施。初日は学校歯科医・歯科衛生士も来校し、各クラス毎の実施に助言指導。洗口剤はミラノール（1.8g）使用。作成、管理は校長、または教頭立会いのもと養護教諭が行っている。 2・4回目には洗口支援として歯科衛生士を派遣し、児童及び学校職員への助言指導を行った。以後、各クラス毎にスムーズに行われている。 校長を始め、学校職員も全員参加し、学校全体で健口づくりに取り組んでいる。	洗口実施の流れ等、養護教諭を中心に担任・児童に周知され初回からスムーズに実施できた。 その後の実施においても、歯科衛生士の支援があり安心して継続でき、実施の流れができた。
家庭へのお知らせ	フッ化物洗口実施の状況を保健だよりの中で報告している。	保護者から学校で実施してもらい有難いとの意見があった。

市町村名 市 原 市

推進研究会への参画	P T A会長が市P T A連絡協議会代表として、市フッ化物洗口推進協議会（2回）へ参加。（会長代理として、副会長等（母親）が2回とも参加）	保護者の立場で参加し理解が図れたとともに実施前後の意見を公表できた。
市事業報告会での報告発表	19.3.7（水）開催の報告会において、校長が実施報告。家庭の状況など地域特性を踏まえ、児童の生活習慣・食育の取組みの一環として実施した経緯を発表。	今後の事業推進について、学校・地域等関係機関との連携、共通理解が必要であること現場の立場として報告できた。

施設②		
市原市立鶴舞小学校 児童数 174名（8クラス）職員数 14名		
19年3月より洗口開始（週1回木曜日朝実施）		
実施事項	具体的な内容	評価
施設職員との打合せ	学校長・養護教諭・学校歯科医・市担当者でフッ化物洗口事業についての打合せを行う。	養護教諭が前任の学校でフッ化物洗口を実施していた経験もあり取り組む方向となった。
モデル校指定	市教育委員会より、フッ化物洗口普及モデル事業のモデル校として指定される。	教育委員会からモデル校指定という形で実施しやすかった。
施設職員研修会	18.11.9（木）学校職員を対象に研修会を市歯科衛生士が実施。学校歯科医の協力を得て、フッ化物洗口の体験も実施。	フッ化物応用に関する基本的理解と洗口に関して共通認識を図れた。
保護者説明会	18.11.19（日）市歯科衛生士により説明会を実施。 19.2.3（土）小林清吾先生を講師として講演会を開催。その後、学校より洗口実施文書配布し、全家庭に希望・承諾書を募る。 希望者は161名（93%）	2回実施したが保護者の参加が少なかった。欠席者には当日資料を配布した。参加者はフッ化物洗口の実施と安全性に関して理解を深められた。
家庭へのお知らせ	養護教諭がフッ化物洗口実施に関して特集号として保健だよりを作成、各家庭へ配布。	写真・絵など解説を入れ大変わかりやすく家庭へ周知された。
水によるうがい練習	2月末に水道水による洗口練習を実施。器材は実際のものを使用する。	準備から後片付けまで流れよく実施された。
フッ化物洗口開始	19.3.1（木）より洗口開始。毎週木曜日、クラス毎に朝の会で実施する。登校後、保健委員が保健室から器材を運び、準備する。 初回は、学校歯科医来校にて、全体への助言指導。歯科衛生士も洗口支援として各クラスへの助言実施。	担当の養護教諭が、小学校でのフッ素洗口の経験者であり、校内での担任への周知・確認、準備・流れ等スムーズに行われている。

市町村名 市 原 市

市事業報告会での報告発表	19.3.7(水)開催の報告会において、校長が実施報告。フッ化物洗口に取り組んだ経緯・学校としての考え方、フッ素洗口開始までの経過と実施の実際を発表。 ※別添 参考資料「フッ化物洗口普及モデル校として」参照	学校経営方針、児童のう蝕の実態を考慮し、さらに食育健康教育推進の根幹として位置づけ取り組んだとしての報告は参加者にとっても非常に高評であった。
--------------	--	---

施設③

市原市立牛久幼稚園 児童数 65名(対象者数:4歳児33名)職員数6名
19年2月より洗口開始(週5回月～木曜日昼実施)

実施事項	具体的な内容	評価
モデル園指定	市教育委員会より、フッ化物洗口普及モデル事業のモデル園として指定される。	教育委員会からモデル園指定という形で実施しやすかった。
施設職員研修会	19.1.22(月)市歯科衛生士による打合せ研修会実施。埼玉県・埼玉県歯科医師会作成のDVD「むし歯を防ぐフッ化物洗口」を使用し、説明。	洗口実施に関する具体的な説明や実際の映像がわかりやすくイメージをつかみやすかった。
保護者説明会	19.2.7(水)午後 東京歯科大学眞木吉信教授による説明講演会を実施。 園歯科医も参加。保護者のフッ化物洗口の体験も実施。	安全性についてとてもわかりやすい説明で保護者の理解を図れた。フッ化物洗口の体験も実施できよかった。
水によるうがい練習	19.2.5(月)より水道水による洗口練習開始。(全11回)初回と一週間練習後に洗口支援歯科衛生士を派遣し、園児・職員への助言、洗口状況の確認等実施。 19.2.13(月)洗口練習派遣2回目	幼稚園には養護教諭がいないこと、職員数が少ないことから歯科衛生士が洗口支援に派遣されたことは大変有効だった。
フッ化物洗口開始	19.2.21(水)より毎日(月～金曜日)給食後の歯みがきの後、洗口を実施。 初回は、学校歯科医来園にて、職員・園児への助言指導。歯科衛生士も洗口支援として各クラスへの助言実施。(33人中32人希望により洗口実施。希望しない児は水道水により同様に洗口。) 19.2.26(月)洗口支援派遣2回目	水での練習を2週間実施したので特に問題なく実施できた。味の変化による園児の様子を心配したができない児はいなかった。初回実施後も歯科衛生士の洗口支援があったことは大変よかった。
推進研究会への参画	園長が市幼稚園長会代表として、市フッ化物洗口推進協議会へ参加。	研究会での協議内容も知った上で園での洗口を実施したことはよかった。
市事業報告会での報告発表	19.3.7(水)開催の報告会において、園歯科医師が実施報告。幼稚園における園児のう蝕	歯科医師の立場からの報告は、特に幼稚園関係者にわかりやす

予防対策の必要性や園での集団フッ化物洗口について発表。	くよかった。
-----------------------------	--------

(基盤整備実施施設)		
施設④ 市原市立千種幼稚園	児童数 140名(対象70名)	職員数 7名
施設⑤ 市原市立八幡幼稚園	児童数 65名(対象34名)	職員数 5名
施設⑥ 市原市立惣社幼稚園	児童数 140名(対象70名)	職員数 7名
施設⑦ 市原市立有秋幼稚園	児童数 56名(対象27名)	職員数 5名
施設⑧ 市原市立辰巳台幼稚園	児童数 140名(対象70名)	職員数 7名
19年度洗口開始予定(週5回法)		

実施事項	具体的な内容	評価
モデル園指定	市教育委員会より、フッ化物洗口普及モデル事業(基盤整備実施園)のモデル校として指定される。	教育委員会からモデル校指定という形で実施しやすかった。
保護者説明会	東京歯科大学眞木吉信教授による説明講演会を実施。全園学校歯科医も参加。説明会終了後には質疑応答を実施し、質問に対し眞木先生に対応いただいた。不安・疑問点等に対しては、説明会終了後もいつでも対応することを伝えた。 全回園児向け8020ココ教室(市事業)を同時実施。 19.1.11(木)千種幼稚園 19.2.7(水)有秋幼稚園 19.1.18(木)八幡幼稚園 19.2.8(木)辰巳台幼稚園 19.1.25(木)惣社幼稚園	安全性についてとてもわかりやすい説明で園歯科医・保護者の理解を図れた。質疑応答により不安・疑問点に対応できよかった。
家庭へのお知らせ	来年度実施に向けて準備していく旨、園長より保護者へ説明。(時期については未定)	保護者の希望・期待度は高い。

【問題となったこと・今後の課題とその対応について】

<p>○ 使用コップについて：予算・環境面から各自持参のコップの使用を考えていたが、学校では準備・管理面から紙コップの使用を希望。 (対応)今年度は学校は紙コップを使用。幼稚園では各児持参のコップを使用している。 (今後の課題)紙コップ代の費用負担について</p> <p>○ 希望しない児童のうがいについて：希望しない児童の洗口はどうするか。 (対応)同様のディスペンサーボトルを使用し、水道水でうがいを実施することとした。 (今後の課題)クラスに一人でも希望しない児がいればボトルは2本必要になること。(ボトル代は倍)受益者負担とする場合、費用算出方法などの問題。</p> <p>○ 井戸水を使用している家庭の児への対応。(歯科医師より) (今後の課題)家庭で井戸水を使用している場合のフッ素濃度の確認が必要か。</p> <p>○ 保護者説明会実施の今後の対応：今年度は県予算、大学教授の協力により実施できたが、実施後も毎年説明会を実施した方がよいと思われるが、その場合の対応をどうするか。</p>
--